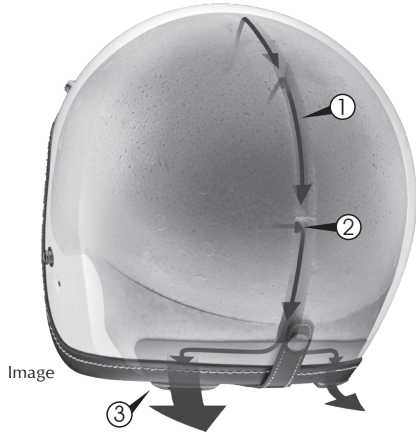


エアフローライナ・ベンチレーション

シンプルなデザインを活かすため、クラシック・エアの表面にベンチレーションダクトは配置されていません。しかし、ベンチレーションシステムは快適なライディングを行うには是非とも必要。そこで、クラシック・エアでは新しいベンチレーションシステムを採用しました。これは、ヘルメット後部に生じる負圧と首の横を通り抜けるヘルメット下面の気流を利用し、ライナに設けられたエアルートでヘルメット内部の熱気を吸い出し、左右のエキゾースト・ダクトよりヘルメット外に排出されます。



- ①エアルート
- ②ライナ通気口
- ③エキゾースト・ダクト

株式会社アライヘルメット

☎330-0841 埼玉県さいたま市大宮区東町2-12

☎048-641-3825

受付時間：午前9時～午後5時（土曜・日曜、祝日を除く）
ヘルメットに関するご質問ご相談は品質管理課まで。

☎048-645-3661

受付時間：午前9時～午後5時（土曜・日曜、祝日を除く）

この度は、アライヘルメットの製品をお買い上げ頂きまして誠に有難うございます。

保存版

Classic AIR

クラシック・エア

取扱説明書

ご使用前に必ず本書をお読みください

本書はヘルメットの使用方法、お手入れ方法、使用上の注意を説明しています。正しくご使用していただくため、最後までよくお読みください。また、本書はいつでも読み返せるよう、大切に保管してください。万一、本書を紛失された場合は、弊社『品質管理課』までお問い合わせください。製品の改良などにより、お客様に予告なく仕様の変更を行う場合がありますのでご了承ください。

本書記号は下記のような意味を表しています



左のマークで表記されている事項は、この表示を無視して誤った取り扱いをした場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性が高いと思われる事項であることを示しています。



左のマークで表記されている事項は、この表示を無視して誤った取り扱いをした場合、ヘルメットを破損させ、安全装備としての機能を低下させる可能性が高いと思われる事項であることを示しています。

※本製品は日本国内仕様です。国外では使用しないでください。尚、他国には各々の国で必要となる法律、規格等が定められており日本国内仕様である本製品は適合していません。

安全のため、守っていただきたいこと！

▼走行条件に合ったシールドをお選びください。

※シールドを装備したヘルメットに限ります。

周りが暗くなってきたにも関わらずスモークシールドのままでは走行すると、視界が悪化し状況判断し難くなり大変危険です。長距離ツーリングなどで夜間も走行する場合は、光線透過率が70%以上のアライヘルメット純正クリアシールドに交換してください。尚、外したシールドは傷を付けないようにご注意ください。



▼走行時のヘルメット操作は危険！

オートバイで走行中、シャッターの開閉等の操作を行うにはハンドルから一時的に手を離さなければならず、その結果オートバイの運転に支障をきたすおそれがあります。ヘルメットの操作は停車時に行ってください。但し、シールドやサンバイザーの開閉は視界の確保などに必要なため、この限りではありません。



▼衝撃を受けたヘルメットは再使用できません！

ヘルメットは衝撃を受けると、その一部が壊れることで衝撃を吸収して頭を守るように作られています。したがって、かぶった状態で衝撃を受けたヘルメットは、例えば表面に大きなキズ等が見られなくても衝撃吸収のプロセスによって内部構造が破壊されています。一度でも大きな衝撃を受けたヘルメットは継続して使用せず、弊社品質管理課まで事故の状況説明と共にヘルメットをお送り頂き、再使用可能かどうか検査を依頼されるか、新しいヘルメットをご購入ください。※ヘルメットの検査自体は無料です。ヘルメットの往復送料のみ、お客様の負担となります。



▼走行中の急激な環境変化に注意する。

※シールドを装備したヘルメットに限ります。

走行時におけるヘルメット内の温度は、ほぼ一定ですが、ライダーは高速度で移動しているため周辺環境（気温・湿度）は常に変化しています。そのため、峠道などの高低差が生じる道路、または突然の雨やトンネルに入った（出た）瞬間、ヘルメット内部と周辺環境の急激な温度変化により、シールド面（外面か内面かは状況によって変わります）に結露（露付き現象）が発生し、急激に曇ってしまう場合があります。このような状況が予想される時にはシールドを微開にしておき、予めシールド内外の温度差を少なくしたり、安全を確保できる走行スピードに調節するなどの注意が必要です。



▼ヘルメットを塗装する際の注意

ヘルメットを塗装する際は、以下の点にご注意ください。まず、ヘルメットの表面を食器洗い用中性洗剤で洗い、汚れや油分を落としてから800番程度のサンドペーパーで表面を研磨します。尚、ヘルメット内の衝撃吸収ライナ（発泡スチロール製）は塗料に含まれる溶剤によって溶けてしまい衝撃吸収性が失われてしまいますので、塗料が染み込まないように入念にマスキングしてください。ヘリ部分、ホック類、ネジ孔なども同様にマスキングして、ご使用になる塗料の説明書にしたがって塗装を行ってください。但し、乾燥時に50℃以上の熱を必要とする塗料はご使用できませんのでご注意ください。尚、ホルダーやダクト等の樹脂成型パーツの塗装は、必ずポリカーボネート樹脂用の塗料と溶剤をご使用ください。



▼ヘルメットの性能は永久不変ではありません。

ヘルメットは日々の着用に伴い、ヘルメットを構成する素材の老朽、劣化などの経時変化によって、新品時と同じ性能を維持できなくなる場合があります。現在ご使用中のヘルメットに特に不具合が見られなくても、SGマーク※の有効期限である三年を目安に、そのヘルメットの着用を開始した日から数えて三年以上経過したヘルメットは買い替えをお勧めします。

※（一財）製品安全協会のSGマーク被害者救済制度



▼ヘルメットの改造は厳禁！

ヘルメットの基本構造は頭を何らかの物質と空間で覆い、頭を保護するものです。安全性を高める為には、より多くの物質、空間が必要となり、したがって安全性の代償として僅かとはいえ視界・聴力・運動性が損なわれる可能性があります。例えば、ヘルメットをかぶると音が聞こえにくく感じる例があげられます。これは周波数の高い音がクッション材などによって吸収されることによって音質が変化するため、通常の会話などの周波数はほとんど吸収されません。このことをご理解いただければ、ご支障なく運転ができます。また、帽体に聴音孔をあけると衝撃吸収性能が低下するだけでなく、かえって風切音が大きくなり聴力を妨げる原因となります。帽体や発泡スチロールに孔をあけたり、削ったりするのはおやめください。



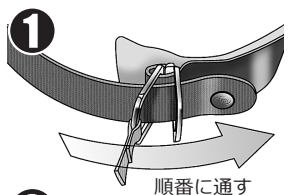
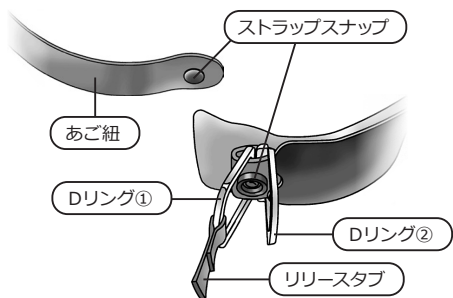
▼溶剤等はヘルメットのお手入れに使用しないでください。

ヘルメットの表面、シールド、ホルダー、シャッター等の部品。ヘルメットの内装の汚れを取り除く際には、水で薄めた中性洗剤をご使用ください。お手入れにアルコールを含むクリーナー類やシンナー系の溶剤、ガンリンなどを使用すると、塗装面や素材が侵されますので絶対に使用しないでください。



1 あご紐の正しい取り扱いについて

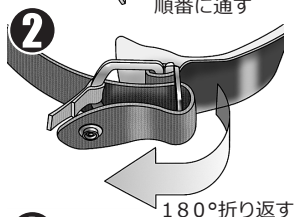
あご紐を正しく締めていない場合、万一の際にヘルメットの安全装備としての機能が十分に発揮できません。当取扱説明書を良くお読みになり、あご紐を正しくご理解いただきますよう、お願いいたします。



1. 二つのDリングに通す

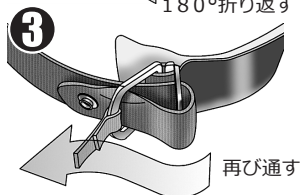
あご紐を、Dリング①→Dリング②の順に通します。

※あご紐を通す際は、途中でねじらないようにご注意ください。



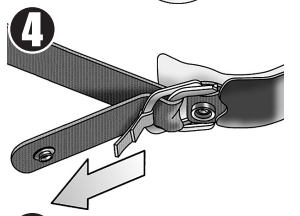
2. あご紐を180°折り返す

二つのDリングにあご紐を通したら、あご紐の先端を軽く引っばってゆりみを取り除きながら180°折り返します。



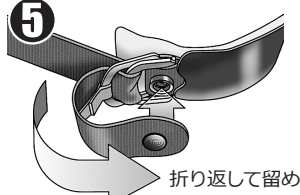
3. Dリング①に再び通す

折り返したあご紐の先端を、Dリング①に通します。



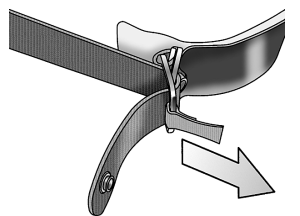
4. あご紐を引っばる

あご紐の先端部を持って矢印の方向に引っばると、あご紐が締まります。



5. 余った先端部を留める

余ったあご紐の先端部をストラップスナップで留めることで、あご紐の風によるバタ付きや、襟元の面ファスナーへの付着を防止できます。



リリースタブの使い方

あご紐先端のストラップスナップを外し、リリースタブを挿んで矢印の方向に引っばると、あご紐を簡単に緩めることができます。

危険

あご紐を正しく締めていない場合、転倒時の衝撃でヘルメットが脱落し、死亡または重傷を負う危険性があります。

Dリングに通さず、ストラップスナップで留めただけの状態であご紐を持たないでください。持ち歩く際の振動等でストラップスナップが外れ、ヘルメットが落下して破損させるおそれがあります。

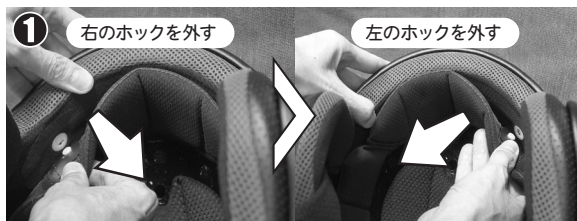


2 システム内装の着脱

システム内装の外し方

①システム内装Aパーツ(フロント&サイド)は、左右二ヶ所のホックのなるべく近くを持ってから、ヘルメットに中心に向けて引っ張って外してください。

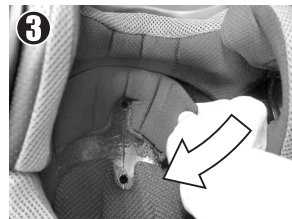
※ヘルメットを被った際の左右に準じます。



②システム内装Aパーツ(フロント&サイド)のサイド部分は面ファスナーで固定されていますので、内装の端をつまんで引き剥がします。

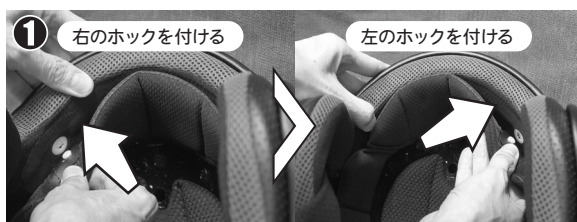


③システム内装Bパーツ(リア)は面ファスナーで固定されていますので、内装の端をつまんで引き剥がします。

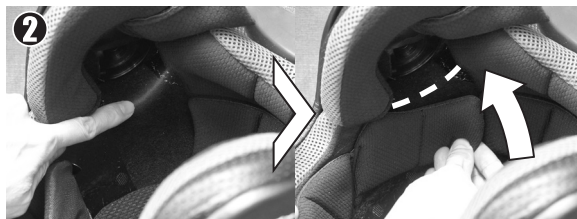


システム内装の付け方

①システム内装Aパーツ(フロント&サイド)の左右のホックを取り付けます。

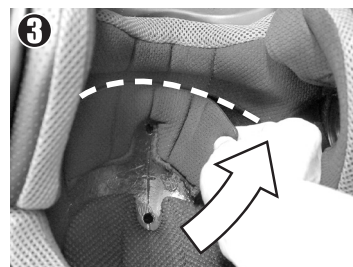


②システム内装Aパーツ(フロント&サイド)のサイド部分を、下写真左で示す衝撃吸収ライナの角の形状に合わせてから面ファスナーを貼り付けてください。



Image

③システム内装Bパーツ(リア)は、パッドのU字の切り込みを衝撃吸収ライナの排気穴に合わせて。首元にあたる内装の端(白い点線)にシステム内装Bパーツ(リア)の形状をピッタリと合わせて面ファスナーを貼り付けてください。尚、内装同士が重なり合うとかぶり心地に影響しますのでご注意ください。

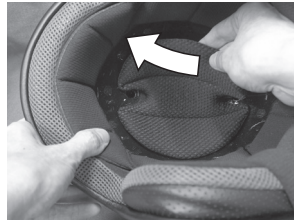


乗車用手袋をヘルメット内に入れると、手首部分の面ファスナーが内装に貼り付いたり、手袋に装備されたプロテクターやエアダクト類がヘルメット内を傷める場合がありますのでご注意ください。

3 天井パッドの着脱

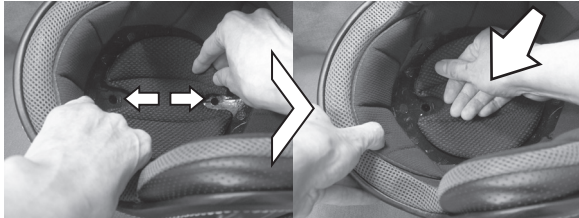
天井パッドの外し方

天井パッドは衝撃吸収ライナの内面に面ファスナーで取り付けられています。外す際は、天井パッドの端をつまんで衝撃吸収ライナの内面より剥がしてください。



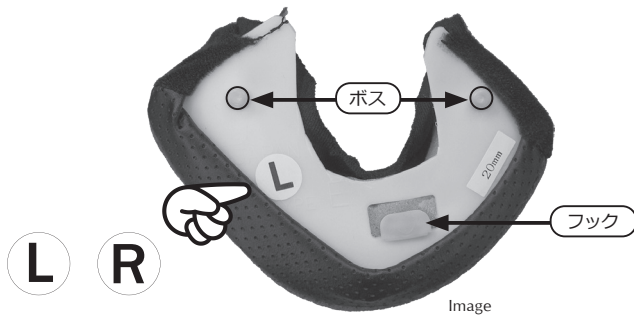
天井パッドの付け方

天井パッドの前後のU字の切り込みを、衝撃吸収ライナの排気穴に合わせます。次に、天井パッドを衝撃吸収ライナ側へ押し付けて面ファスナーを貼り付けます。



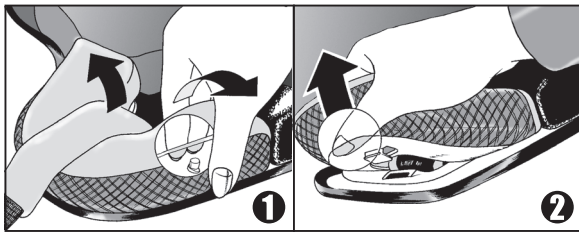
4 イヤーカップの着脱

イヤーカップは、裏面上部2ヶ所のボスと下部のフックでヘルメット側のイヤーカップベースに取り付けられています。また裏面には、イヤーカップの左右を示すシールが貼られています。※ヘルメットを被った際の左右に準じます。



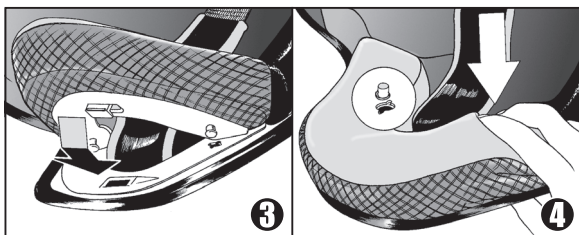
イヤーカップの外し方

イヤーカップ裏に図①のように指をかけ、内側から外側へとめくると外すことができます。次に、イヤーカップ下部に指をかけ、図②のようにひっぱり上げるとフックを外すことができます。



イヤーカップの付け方

図③のようにフックをベースの穴に差し込み、イヤーカップの上からパチンと音がするまで押し込みます。次に、上部2ヶ所のボスをベースの穴にあてがい、図④のようにイヤーカップの上からパチンと音がするまで押し込んでください。



ヘルメットにイヤーカップを取り付ける際、イヤーカップとベースとの間にあご紐を挟み込まないようにご注意ください。あご紐を挟み込んだ状態でヘルメットを着用すると、あご紐の機能が大きく損なわれます。

5 ヘルメットのお手入れ方法



ヘルメットのお手入れにアルコールを含むクリーナー類やシンナー系の溶剤、ガソリンなどを使用すると塗装面や素材が侵されますので絶対に使用しないでください。

着脱式内装のお手入れ 【中性タイプの洗濯洗剤を推奨】

着脱式内装をヘルメットから取り外して手洗いをを行います。洗い終わったら水でよく濯いでペーパータオルなどで水分を取り除き、風通しの良い日陰で自然乾燥させてください。



内装を洗濯機で洗う際は、必ず洗濯ネットに入れ、ドライコース（手洗い）などの素材に負担をかけないコースを選択してください。また、衣類乾燥機や洗濯乾燥機による内装の乾燥につきましては、その乾燥温度が50℃以上に達する場合はご使用頂けませんのでご注意ください。

※乾燥温度については、衣類乾燥機や洗濯乾燥機に付属している取扱説明書をご確認ください。

ヘルメット本体の洗い方 【中性タイプの洗濯洗剤を推奨】

ヘルメットを丸洗いはする時は、ヘルメットから着脱式内装を取り外してヘルメット全体を中性タイプの洗濯洗剤を少量溶かした水に浸し、ヘルメットの表面、あご紐、内部メッシュ生地を洗い、その後真水で十分に濯いでペーパータオルなどで水分を取り除き、日陰の風通しの良い場所にヘルメットを逆さまに吊して自然乾燥させてください。



ヘルメットを乾燥させる際、50℃以上加熱したり、ヘルメットを長時間日光にさらし続けると、ヘルメット内の衝撃吸収ライナが熱や太陽光に含まれる紫外線により変形、変質し、衝撃吸収性が失われてしまいますのでご注意ください。

ツヤ消し塗装のヘルメットについて

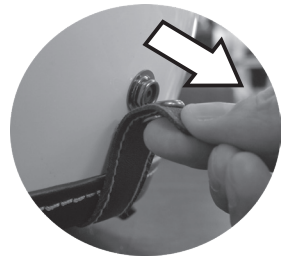
ツヤ消し塗装のヘルメットのお手入れに、アルコール・ガソリン・ベンジン・灯油・シンナー系の溶剤等は絶対に使用しないでください。付着した汚れは水やぬるま湯を少量含ませた柔らかい布で拭き取ってください。この時に表面を強くこすると部分的なツヤが生じてしまいますのでご注意ください。もし汚れが落ちない場合は、中性タイプの台所用洗剤を水で薄めてご使用ください。

ツヤ消し塗装表面を消しゴムで強くこすると、塗装面に部分的なツヤが生じますので使用しないでください。また、コンパウンド（研磨剤）や、コンパウンドを含むワックス等でヘルメット表面を磨くと、塗装面に部分的なツヤが生じますので使用しないでください。

ツヤ消し塗装の性質上、各種塗料・インク・ボールペン・油性 / 水性マーカーなどが付着した場合、きれいに落とす事ができません。付着させないように十分ご注意ください。

ゴーグルベルト留めについて

ゴーグルベルト留めを外す際は、ゴーグルベルト留めの先端を摘んで引っ張り、ヘルメット側のホックから取り外します。取り付ける時は、ホック同士を重ね合わせて、ヘルメット側に向け押し付けます。



6 オプションパーツリスト

パーツ名/カラー		注文番号
クラシック AIR イヤーカップ	20mm	062235
	25mm	062236
クラシック AIR システム内装セット	Ⅱ-7mm	075765
	Ⅲ-10mm	075766
	Ⅲ-7mm	075767
	Ⅳ-7mm	075769
ニューコンペシールド	クリアー	031506
	スモーク	031507
ピーコックひさし	白	092060
	黒	092061

アライヘルメットではヘルメットやパーツ類のお客様への直接販売を行っていません。お客様のお近くのオートバイ用品取扱店にてご注文及びご購入ください。オプションパーツの価格につきましては、アライ製品のカタログやアライヘルメットのホームページをご参照ください。尚、通信料はお客様のご負担となりますので、予めご了承ください。